

## 第九章 子なる神・代償的死

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)

聖書の中では、キリストの死は全世界の罪を取り除くための犠牲であったことが、明らかに示されている。イエスはその死において、実際にすべての人の身代わりとして死なれた。その代償的死によって、罪人に対する神の無制限の正当なさばきが、キリストの身に負わされたのである。神はそれによって完全に満足されているがゆえに、私たちにはキリストが私たちの罪のために死んでくださったことを認め、イエス・キリストを自分の救い主とすることが求められている。

過去において犠牲の動物は、一時的な罪の許しを得る手段として用いられた。それは、やがてキリストが来られ、一時的でない、永遠の罪の許しを得られることを指している。

### I 御子の死が成就すること

- 1、キリストの死は、罪人に対する神の愛を私たちに確証する。(ヨハネ 3:16、ローマ 5:8、Iヨハ 3:16、4:9) 神が私たちを愛しておられるという事実は、私たちに高い道徳的基準で生きるように影響を与えるはずである。(IIコリ 5:15、Iペテ 2:11-25)
- 2、キリストの死は聖なる神の罪人への要求に対して払われる贖い、あるいは身代金となるべきもので、罪人をその当然の報いとしての断罪から解放するものであると言われている。新約聖書では「~の代わりに」「~のために」を意味する語が用いられている。(マタイ 20:28、マルコ 10:45、Iテモ 2:6)  
キリストが代価を払って、私たちを買い取ってくださった。その概念を表すのに三つの主要なギリシャ語が用いられている。
  - (1) アゴラゾー；「市場で買う」という意味。売られて罪の下にある奴隷を、キリストの血によって買い取ってくださったのである。
  - (2) エクサゴラゾー；「市場から買い出す」という意味で、単に買い取るだけでなく、そこから持ち出すということで、贖罪が一度だけで完成することを示す。
  - (3) ルトロオー；「解き放す」とか「自由にする」という意味で、奴隷を自由にするなどなどに用いられる。このことから、キリストは私たちを罪の縄目から自由にしてくださったことが分かる。
- 3、キリストの死はご自分の側においては、罪人たちが破った律法への服従の行為として表された。その行為は、罪人に対する神の正当な要求すべての和解、ないしは償いを形成している。(ローマ 3:25、26、Iヨハ 2:2、4:10、ヘブル 9:5 参照)
- 4、キリストの死は聖なる神の義を回復し、なだめただけでなく、この世が神と和解される基盤となった。「和解させる」という意味のギリシャ語 [カタラツソー] には、人を根底から変えることによって、神と一つに結び付けるという考えが含まれている。(ローマ 5:10、11、11:15、Iコリ 7:11、IIコリ 5:18-20、エペソ 2:16、コロ 1:20)

- 5、キリストの死は、それによって罪が贖われ、神がなだめられ、人が神と和解されたという点で、神のみこころの中で罪人を許すにあたって、道徳的に妨げとなるものを、すべて取り払ってくださった。
- 6、キリストはその死において罪人に帰属する罰を身に負い、彼らの身代わりとなられた。(レビ 16：21、イザヤ 53：6、マタイ 20：28、ルカ 22：37、ヨハネ 10：11、ローマ 5：6-8、I ペテ 3：18)

キリストは全世界のために死なれた、という一般的な信じ方では十分ではない。自分自身の罪が身代わりのキリストによって完全に負われたという、個人的な確信が必要なのである。それは、安心、喜び、感謝の思いを結果として生み出す信仰である。救いはキリストを信じる者のために、瞬時に成就される神の力あるみわざである。(ローマ 15：13、ヘブル 9：14、10：2)

## II 御子の死に関する誤った諸説

- 1、正義の神が有罪者の罪を無罪の人に負わせるなどありえないという理由で、代償的死の教理は道徳的でないといわれる。
- 2、キリストは殉教者として死なれたのであって、主の死の価値はご自分の信念に対する死に至るまでの忠実さと勇気の模範の中に見いだされると言われる。
- 3、キリストは道徳的な効果を生み出すために死なれたのだと言われる。